

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

南古谷駅周辺地区

令和6年3月

埼玉県川越市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	地区内人口	人	6,309	6,350	6,389	確定 見込み	● ○	あり なし	6,385	R5年3月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	事業用地内に歩行空間の暫定整備を行ったことで、安全性・利便性が向上した。また、まちづくり通信や住民アンケート等を実施したことで地域住民への関心及び期待度が高まったことなどにより、目標値を達成した。
指標2	鉄道・路線バスの利用者数	人/日	16,362	16,400	13,912	確定 見込み	● △	あり なし	15,083	R5年5月	△	新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いたが、コロナ前の鉄道・バス利用に比べて人の往来が少なかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	目標値にはわずかに届かなかったが、新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いたことにより、徐々にではあるが、鉄道・路線バス利用者数が増えた。
指標3	アクセス時間の短縮	分	6	2	6	確定 見込み	● ×	あり なし		R 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	南北連絡自由通路の整備が出来ず、目標達成には至らなかったが、令和3年度に鉄道事業者と基本設計協定を締結し、2期計画において整備を行う。
						確定 見込み	● なし	あり なし		R 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	川越市デマンド交通「かわまる」利用者数	人	-	/	1,133	確定 見込み	● /	/	/	R 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	令和2年度より運行開始した川越市デマンド交通「かわまる」は、生活の利便性の向上に寄与した。
その他の数値指標2	シェアサイクル利用者数	人	-	/	6,678	確定 見込み	● /	/	/	R 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	移動の選択肢が増えたことにより、交通結節点として利便性の向上に寄与した。
その他の数値指標3			/	/		確定 見込み	● /	/	/	R 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<ul style="list-style-type: none"> ・成果を持続させるために行う方策 	地区内人口維持	まちづくり通信の発行や、南北連絡自由通路の実施設計を実施した。	まちづくり通信の発行や、建築計画概要の地元周知等により、まちづくりの機運が高まった。	2期計画では、「地区内の人口密度」を指標にしていることから、目標達成に向けた情報発信が課題。
	歩道整備の快適性及び安全性向上	北口駅前広場予備修正設計を実施。 南古谷伊佐沼線の詳細設計を実施。 交通量等の実態を把握するため、周辺の交通量調査を実施。	交通管理者等関係機関との協議を進め、快適で安全な広場設計、道路設計を進展させた。	今後、地元や利用者等の意見も聞きながら、快適で安全な広場設計を進めるなど、2期計画で指標にしている「アンケート満足度」が向上するよう、地域ニーズの把握等が課題。
	交通モビリティの維持	駅周辺の交通量調査を実施。 川越市デマンド交通(かわまる)、自転車シェアリング等の維持。	関係機関と協議を重ね、新たに整備する駅前広場に、川越市デマンド交通(かわまる)の乗降場や自転車シェアリングのステーションを設置する方向とした。	2期計画では、交通利便性に係る「アンケート満足度」を設定しており、引き続き交通モビリティが維持できるハード整備の計画が課題。
改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策 	鉄道により分断されている土地利用及び地域の活性化や賑わいの創出	南北連絡自由通路の実施設計を実施した。 駅周辺の土地利用について検討した。	南北連絡自由通路の建築計画概要を地元で周知し、地域の活性化や賑わい創出の機運が高まった。土地利用については、地区周辺を含めた中で、企業ニーズやポテンシャルを把握した。	今後は、地域の活性化に向けた土地利用について、駅の縁辺の土地利用者を中心に、まちづくりのビジョンを共有しながら対話することが課題。なお、2期計画の指標では「自由通路を往来する人数」を設定している。
	道路や南口にある既存の小規模な駅前広場など、都市基盤が脆弱で交通利便性・安全性が確保されていない	北口駅前広場予備修正設計を実施。 南古谷伊佐沼線の詳細設計を実施。 交通量等の実態を把握するため、周辺の交通量調査を実施。 既設の南口駅前交番の移転候補地の取得。	交通管理者等関係機関との協議を進め、快適で安全な広場設計、道路設計を進展させた。また、必要な用地の取得を進展させることができた。	関係機関と協議しながら、交通利便性、安全性が確保されるような広場計画、道路計画とする必要がある。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(第3回変更)

みなみふるやえきしゅうへんちく
南古谷駅周辺地区

さいたま かわごえし
埼玉県 川越市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	カワゴエシ 川越市	地区名	ミナミフルヤエキシヨウヘンチク 南古谷駅周辺地区	面積	66.3	ha
計画期間	平成	30	年度	～	令和	4	年度	
				交付期間	平成	30	年度	～
					令和	4	年度	

目標

南古谷駅周辺を地域核にふさわしい新たな都市機能の充実により魅力を高め、回遊性、利便性、及び安全性の向上を図り、地域の活性化及び賑わいを創出する。

- ・南古谷駅を拠点とした都市機能の充実、及び地域特性を生かしたコンパクトな市街地の形成。
- ・都市計画決定されている都市計画道路及び駅前広場などの整備により、公共交通の安全性・利便性の向上を図り、交通結節点としての機能を強化。
- ・南古谷駅周辺南北市街地の一体化による、地域の活性化、及び賑わいの創出。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

本地区の中心に位置する南古谷駅は、改札が南口のみとなっており、地区が南北に分断されているため、北側からの駅利用には、鉄道を迂回横断しなければならない。また、南口には小規模な駅前広場はあるものの、十分な規模の駅前広場は整備されていないため、自動車・自転車・歩行者及びバスなどが錯綜している。

これらのことから、都市計画道路や駅前広場などの都市基盤整備による交通結節点機能の強化や、南北連絡自由通路を整備して分断された市街地の一体化を図ることで、魅力ある都市機能の強化充実を進め、地域の活性化及び賑わいの創出を図ることとしている。

課題

鉄道により市街地地区が分断され、土地利用に格差が生じている。
道路や南口にある既存の小規模な駅前広場などの都市基盤が脆弱であり、交通利便性・安全性が確保されていない。
南口しかないことにより、北側の住民は駅を利用するために踏切を横断し大きく迂回しなければならない。
南口しかないことにより、来訪者が北側の大規模商業施設に向かうために踏切を横断し大きく迂回しなければならない。
南口しかないことにより、地域の活性化や賑わいの創出を妨げている。

将来ビジョン(中長期)

「第四次川越市総合計画」(平成27年3月)では、「南古谷駅周辺を地域を「地域核」と位置付け、地域社会の経済活動など市民活動の基盤として、個々の特性を生かした市街地の形成を図ります。また、地域核は都心核、他の地域核、各拠点との機能の連携を図ります。そのために都市計画道路等の幹線道路整備や公共交通の適正な配置に努め、総合的な交通体系の構築を目指します。」としている。

「川越市都市計画マスタープラン」(平成25年9月)では、「南古谷駅を中心とした川越市東部の新しい生活拠点として、秩序ある道路・町並み・商業地等が充実した、便利で魅力あるまちづくりを進めるため、生活便利施設やサービス施設が充実した商業の集積化を図ったり、都市計画道路等幹線道路の整備を行い、歩行者の安全の確保、バス路線網の充実等による地域交通の利便性の向上を図る。」としている。

「川越市立地適正化計画」(平成30年4月)では、「豊かな田園景観と商業の魅力を生かしたまちづくりとして、商業レクリエーション施設の魅力と生活利便施設を維持することで、都市機能の充実を図り、健康で豊かな暮らしを求める多世代を誘導する」としている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内人口	人	本計画地区内の人口	多世代の快適な生活を可能とする土地利用の促進	6,309	H29	6,350	R4
鉄道・路線バスの利用者数	人/日	鉄道及び路線バスの利用者数	公共交通の利便性の向上による鉄道・路線バス利用者数の増加	16,362	H27	16,400	R4
まちづくり通信の発行回数	部	住民の関心数	自由通路を設置し都市機能の魅力を高め、回遊性・利便性及び安全性の向上を図り、賑わいを創出	6	H29	2	R4

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・南古谷駅を拠点とした都市機能が充実、及び地域特性を生かしたコンパクトな市街地の形成 	【基幹事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・道路:(都)南古谷伊佐沼線
<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画決定されている都市計画道路及び駅前広場などの整備により、公共交通の安全性・利便性の向上を図り、交通結節点としての機能を強化 	【基幹事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・道路:(都)南古谷伊佐沼線 ・道路:南古谷駅南口駅前広場(市道4175号線)、南古谷駅北口駅前広場(市道0039号線)
<ul style="list-style-type: none"> ・南古谷駅周辺の都市機能の充実したコンパクトで快適な居住環境を備え、鉄道により分断された南北市街地の一体化。 	【基幹事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・道路:(都)南古谷伊佐沼線 ・道路:南古谷駅南口駅前広場(市道4175号線)、南古谷駅北口駅前広場(市道0039号線)
その他	

